

熊本で地震 支援に動く

今夏は各地で災害が発生している。九州管内では、7月28日に熊本県を震源とする地震が発生し、最大震度7を観測した。熊本では10年ぶりの大地震だ。今回、令和8年熊本地震の支援を行った方々に取材をした。自分たちに何が出来るかについて考えるきっかけにしてほしい。(高一 白土大翔、中村志緒里、谷口紗菜 中三 吉岡舞子、皆川紅芭、川浪茉夏 中二 岡本旺志郎)

災害医療コーディネーターは

集まった善意を指揮

今回、地震後に八代市で災害医療コーディネーターとして活躍した皆川雄郷さん(本校9回卒)にお話を伺った。

皆川さんは今回の熊本地震において、救護班の配置や大量の物資の運搬を統率し、被災した病院のライフラインの復旧や、避難所を見て回り様子を確認するといった支援に携わった。

八代市に赴いた当初、一日に80か所の避難所を回るというノルマを課された日本赤十字社。その状況で皆川さんの所属する日赤のチームはわずか2隊であった。そのため、DMATなどのほかの医療機関と連絡を取り合い、人手を借りて二人三脚で何とかやり遂げたそう。

皆川さんは災害対策会議にも参加し、どの団体がどのような支援を行うのかについて調整の議論を重ねた。その中で行政と現場をつなぐ役割として、摩擦が起らないようにコミュニ

ニケーションをとったという。一方で、震災が頻繁に起こる地域には独自のつながりがあるため、そこへの入りにくさにも頭を悩まされたそう。

最後に、災害に際して中高生に何が出来るのかについて、



支援活動を振り返る皆川さん

北海道の企業も支援に

陰圧テントで涼を提供

今年7月28日に起きた熊本地震後、酷暑に見舞われた熊本。9月に入っても厳しい暑さが続くなか、八代市災害ボランティアセンター(八代市鏡町)に設置された涼をとるための「陰圧テント」が活躍している。この陰圧テント

は、北海道帯広市に本社を置く、宮坂建設工業株式会社が提供したものだ。2020年のコロナ禍に際し、ワクチン接種やPCR検査のための待機場所として活用された。

コロナが収束した後も、涼をとる設備として、中学校の部活動のほか、市内のイベントや中体連(野球)の全道大会へも貸し出した。今年も貸し出したところ、熊本で地震が発生し、同社の宮坂寿文社長が陰圧テントを熊本に送ることを思いついたという。「輸送やホテルの手配など、多くの会社が協力してくれた。協力者がいたから実現できた」と取締役

きるのかについて、皆川さんに尋ねてみた。「被災地にとって中高生のマンパワーは大きいものである。数か月は避難所が新しいコミュニケーションになるため、子供の話し相手になることは心のケアにもつながる。八代市役所のホームページではボランティアを募集している。確認してみよう」と。

本校高校一年の田村征也さんは、8月7日に八代市にてボランティアを行った。ボランティアをどのように見つけたか尋ねると、「自分の姉が関わっている団体(認定NPO法人 テラ・ルネッサンス)を通して参加をした。主に、物資の運搬を行った」と教え

学館生 ボランティアに

参加にあたっての気持ちについて聞いた。「正直に言うと、最初は行きたくないという気持ちもあったが、実際にやってみて、人のために動いているという嬉しさを感ずることができた。ボランティアをやった良かった」と田村さんは振り返った。

佐賀の災害支援のプロも動く

今回の熊本地震では、様々な団体や企業、自治体が支援を行った。その中で、10年前の熊本地震や3年前の能登半島地震など様々な災害において支援を行ってきた、公益社団法人 Civic Force (佐賀市)の後藤忍さんにお話を伺った。

Civic Forceは、災害が発生した際には、各支援団体や行政等などとの調整を担っている。対等なパートナーシップ関係を築くことが重要で、「団体それぞれのいい部分を生かせるような対応をすれば、各団体間でぶつかることは少なくなり、支援もスムーズに行うことができる」と後藤さんは話す。

平時からの備えの重要性についても後藤さんは指摘した。今回、地震発生よりも前の段階で、連携する企業の協力のもとに熱中症対策キットを準備していた。そこに地震が発生。スムーズな支援につながった。

「災害は増えていく。社会全体で、常に災害に対する関心を持ち、一般市民と連携しながら、災害に強い社会を作っていく」と後藤さんは力強く語った。

平時からの備えを

災害がさらに多発する時代に入った。実は、次年度新聞部門の全国大会が予定されている石川県羽咋市でも、8月に記録的な大雨が降り、被害が出た。まずは、自分事として災害を捉えたい。どのようにしたら被害を小さくできるか、物資の支給がとまらなくなるかといったことに思いめぐらせたい。今回の取材は、その良いきっかけとなった。

して災害を捉えたい。どのようにしたら被害を小さくできるか、物資の支給がとまらなくなるかといったことに思いめぐらせたい。今回の取材は、その良いきっかけとなった。



八代神社の被害(8月14日撮影)



上 陰圧テント(右)とトイレカー、下 テント内部の様子。ボランティアの休憩所となった

